

八戸市では、港湾を中心に様々な産業を創出し、市民が安心して快適にらせる都市をはぐくんできました。

その結果、24万人を超える人がくらし、様々な産業が根付いた北東北の中核都市へと発展しました。

近年、少子高齢化や国際化、情報化、地方分権化などが進行し、人々のライフスタイルや価値観が多様化するなど、私達をめぐる状況はめまぐるしく変化を続けています。このように変化する社会状況の中で、新たに求められるくらしやすさや地球環境に対する配慮など、都市に求められることも大きく変化しています。

八戸市では、これからの時代に求められる新たな都市の役割を見据えた上で、市民の誰もが、八戸という都市でくらす住民として、快適に生活し、様々な活動に自由に取り組める都市を形成します。

そして、広域から多くの人やもの、情報が交流する都市を実現します。

...空間に限らず、交流、情報、都市サービスなど様々な分野でバリアフリー\*に配慮した都市として、だれもが普通に生活できること。

...働く、学ぶ、交流する、遊ぶ、くつろぐなど、若い世代から高齢者までだれもが希望を持ち、自立的に考え、活動できること。

...人を惹きつける、人や情報が集まる都市活力を持った交流都市であること。

今後は、これまで培ってきた都市基盤<sup>つちか</sup>や都市機能、市民の活力という都市の財産を活かし、長い時間をかけてはぐくんできた自然や歴史などの資源を尊重しながら、新たな視点を加え、めざすべき都市の再構築を図ります。

そして、市民一人ひとりが八戸市を「わがまち」として育て、愛着と誇りを持てる都市をめざします。

### 3

## 将来都市像

えがおが生まれる えがおが集まる都市



市民が えがおで 働き、学び、くらす、  
自然が えがおで 息づいている、

訪れた人が えがおになる、  
たくさんの えがおが 集まる、

八戸から たくさんの えがおを 生みだす都市を めざします。

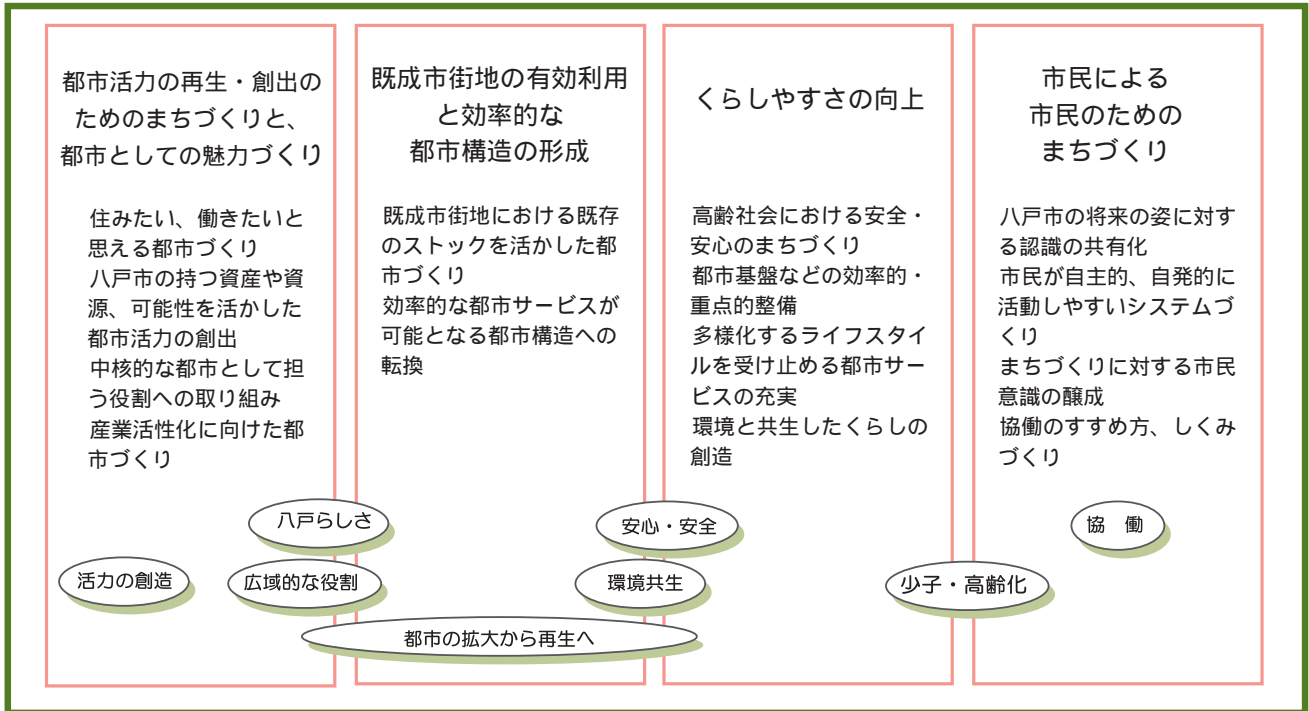


# 4

## 将来目標

将来目標とは、基本理念や将来都市像を踏まえ、具体的にどのような都市をめざすのか示したものです。

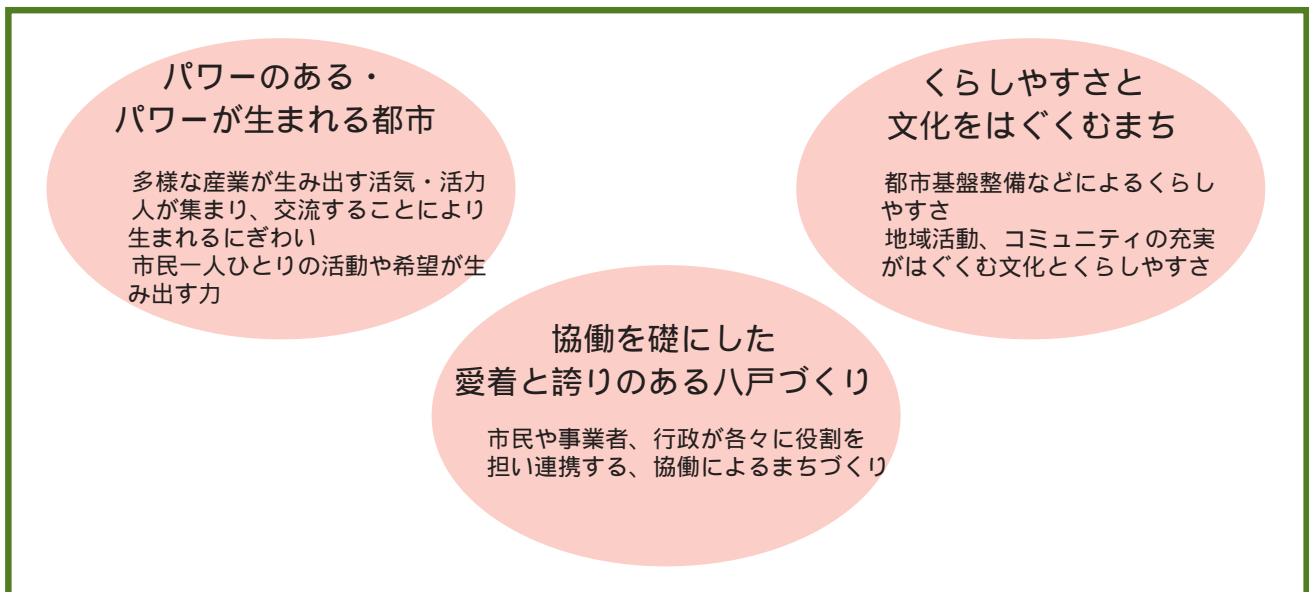
### まちづくりの課題



### 将来都市像

# えがおが生まれる えがおが集まる 都市

### 将来目標



## パワーのある・パワーが生まれる都市

八戸市の都市活力を生み出すパワーとして、「多様な産業が生み出す活気・活力」「人が集まり、交流することにより生まれるにぎわい」「市民一人ひとりの活動や希望が生み出す力」があります。

今後も市民及び周辺住民が快適に暮らし続けていくために、これらのパワーが市内各所から生まれ、蓄積されることで、都市活力の維持、再生をすすめます。

### [ 多様な産業が生み出す活気・活力 ]

八戸市では、これまで多様な産業が育ってきており、これらの産業が市全体の活力や活気を生み出す大きな役割を果たしてきました。今後も、これらの産業を育て、活かしながら、新たな活力を創出する都市を形成します。

産業の活性化に向けて、異なる産業同士や学術・研究機関、市民との連携を積極的に図り、新たな活力の創出をめざします。また、交通網や情報インフラ\*などの都市基盤の充実を図ります。さらに、多様な就業形態の整備、安心して働ける福祉サービスやコミュニティの充実など働きやすい環境づくりをすすめます。

そして、多様な産業によって創出された活力が、市民の自信や活気へとつながる都市をめざします。

### [ 人が集まり、交流することにより生まれるにぎわい ]

八戸市では、北東北の中核的な都市として、周辺市町村を含む広域を対象とした都市機能を形成してきました。今後も、中核的な都市として、広域圏を対象とした医療や学術・文化、エンターテイメント\*など様々な分野における高次都市機能などを充実するとともに、産業や生活文化を牽引する役割を担っていきます。さらに、これらの機能を周辺市町村の人々が活用しやすいように配置するとともに、交通網の形成を図り、多くの人が集まりやすい都市をめざします。そして周辺市町村との相互連携を図ることで、効率的な都市運営や、魅力ある広域圏を形成します。

また、国際港湾としてのさらなる発展などにより、海の玄関口としての役割が増してきます。これらの機会を受け止め、国際交流やそれに伴う国内他都市との連携を活発にすすめることで、活力の創出を図ります。

### [ 市民一人ひとりの活動や希望が生み出す力 ]

コミュニティ\*活動、ボランティア活動、文化・スポーツ活動などの、市民一人ひとりによる様々な活動が活力を生み出し、「えがおが生まれる えがおが集まる都市」を形成していく原動力となります。

八戸市では、市民一人ひとりがいきいきと活動でき、そして希望を生み出せる都市をめざし、市民が自主的、自発的に活動しやすい、またその活動を活かしていける環境づくりをすすめます。

## くらしやすさと文化をはぐくむまち

少子高齢化による人口構造の変化や、人々の価値観の変化に伴ったライフスタイル・就業スタイルの多様化などにより、人々が求める「くらしやすさ」は変化してきています。

今後は社会動向の変化に対応し、都市基盤などの充実によるくらしやすさの向上と、地域ごとに市民が文化をはぐくむまちを形成します。

### [ 都市基盤整備などによるくらしやすさ ]

八戸市では、道路や下水道、公園などが整備されている地域や道路整備が足りない地域、河川が氾濫する危険がある地域など、様々な地域があります。

このような地域状況や特性などを踏まえ、安心・安全への視点を第一に、市街地を中心に地域状況にあわせた都市基盤整備を促進します。また、高齢者などの都心居住を促進するまちづくり、就業支援や子育て支援などの都市サービスが充実したまちづくり、多世代が交流できる拠点づくりなど、地域ごとに求められる「くらしやすさ」の形成に向けて、これまでに整備をすすめてきた都市基盤などを活かしながら、都市施設整備、機能配置などをすすめます。

整備にあたっては、限られた財源の中で、投資と効果のバランスを見極め、効率的に整備をすすめます。

### [ 地域活動、コミュニティの充実がはぐくむ文化とくらしやすさ ]

八戸市には、漁港のある地域や城址のある地域、都市サービスが集積している地域、田園が中心となる地域、新しく計画的に街が創出された地域、音楽活動に熱心な地域など、様々な特性や歴史、成り立ちを持つ地域があります。

これらの日常の市民生活や歴史、地域特性をあらためて文化として認識し、各地域の持つ特性や歴史を活かしたまちづくりや地域活動をすすめることで、地域ごとに特色や文化をはぐくむまちを形成します。

## 協働\*を礎にした愛着と誇りのある八戸づくり

人々の意識や価値観の変化から、居住する場所や働く場所、働き方などをこれまで以上に選択する時代になると考えられます。一方で、地方分権化により、地方自治体では、独自のまちづくりをすすめることができるようになります。

このような中で、八戸市でくらしたいと思う、またくらすことに誇りを持てる八戸づくりを、市民\*と事業者\*、行政が協働ですすめます。

### [ 市民や事業者、行政が各々に役割を担い連携する、協働によるまちづくり ]

地方分権がすすみ、地方自治体が担う役割や施策の選択の幅がより大きくなっています。一方で、くらしや環境などに対する市民の意識や関心が高まり、そのニーズも多様化、高度化しています。また、市民の自主的自発的な活動も活発になってきています。

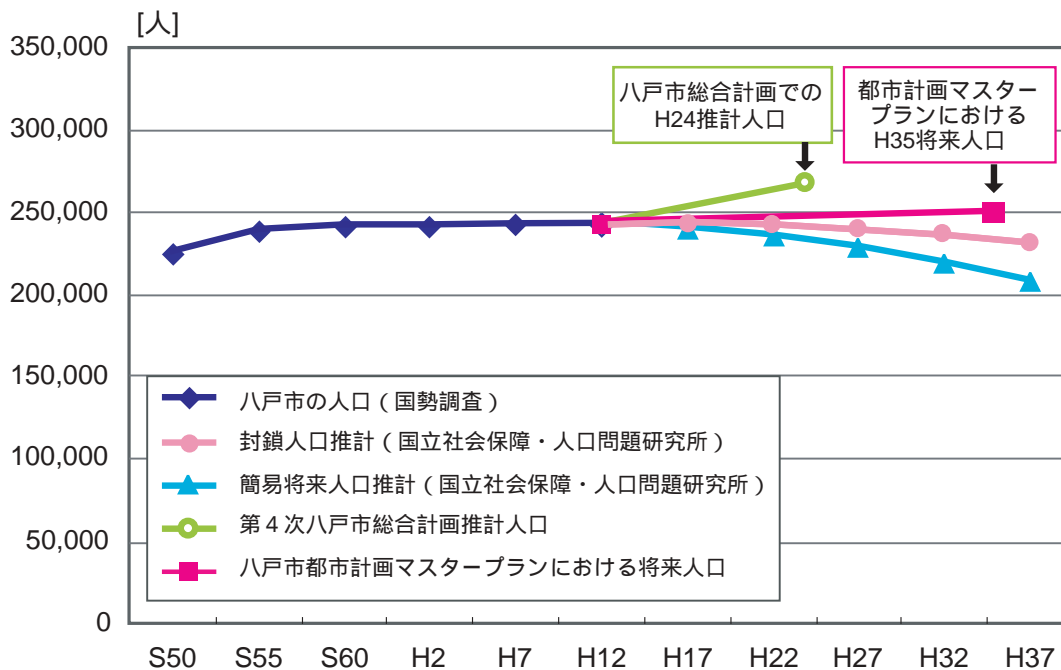
愛着と誇りのある八戸づくりに向けて、市民や事業者、行政が、八戸市の持つ自然や産業、文化、歴史などについて学び、八戸市の特性や可能性への認識を高めるとともに、適正な役割分担のもとに連携、協力し、相互支援をしながら、協働によるまちづくりをすすめます。

# 5

## 将来人口フレーム\*

本計画の目標年次である平成35年（2023年）において八戸市人口をほぼ現状維持となる**25万人**と想定します。

グラフー将来人口推計



日本全体では、平成18年をピークに減少していくことが予測されています（国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口：平成14年1月推計）。また青森県の人口を見ると、昭和60年頃をピークに、既に減少傾向が続いています。

八戸市の人口推移を見ると、平成8年頃をピークに、ほぼ横ばい、または若干の減少傾向が見られます。また、現在八戸市でくらしている市民の出生、死亡による変化のみを対象に推計した場合には、平成17～22年をピークにその後減少していくことが推計されます（コホートによる封鎖人口）。社会移動を予測し推計した場合には、さらに減少すると推計されます（簡易将来人口推計）。

このような状況から、八戸市の将来人口も減少していくと予想されています。しかし、北東北の中核的な都市としての役割を高め、都市活力の創出とくらしやすさの向上を図り、八戸でくらしたいと思われる都市づくりをすすめることにより、現在の人口より少し多い約25万人の人口をめざします。

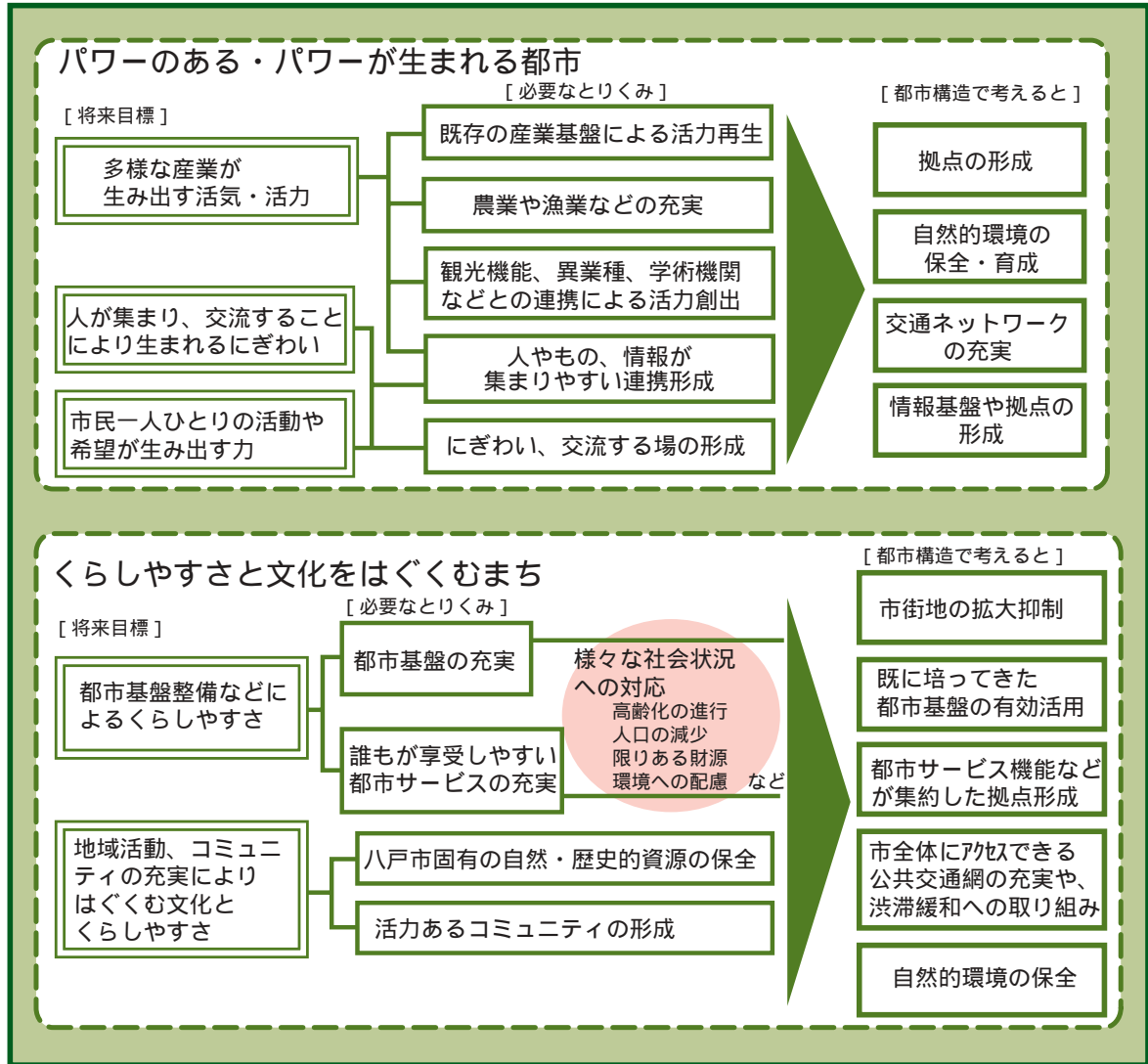
# 6

## 将来都市構造

将来都市構造とは、将来都市像や将来目標の実現に向けた都市の構造を描いたものです。

### (1) 基本的な考え方

将来目標で描いた都市の実現に向けて、めざす将来都市構造を次のような考え方で形成します。



無秩序な市街地の拡大を抑制しながら既成市街地内の低・未利用地の有効活用をすすめ、コンパクトで効率的な市街地の形成を図ります。  
 山地や丘陵地、農地などの自然的環境は保全することを基本とし、集落地においては周辺の自然的環境と調和した柔軟な土地利用を図ります。  
 市内各所から都市拠点などの拠点へ円滑に連絡する交通ネットワークを形成します。

### コンパクト&ネットワークの都市構造

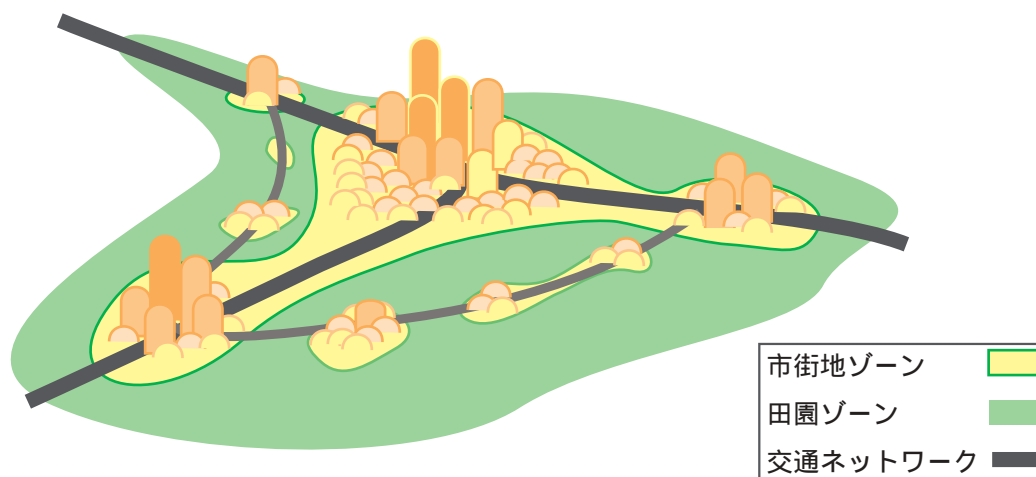
#### コンパクトな市街地の形成

市街地の拡大を抑制する  
 自然的環境を保全する  
 拠点性を高める など

#### ネットワークの充実

公共交通や道路網などの充実  
 情報など様々な連携強化 など

## 〔コンパクト＆ネットワークの都市構造の形成イメージ〕



## (2) 3つの視点による都市構造

コンパクト＆ネットワークの都市構造では、拠点やネットワークなどが多様な役割を担っています。ここでは以下の3つの視点に分け、各視点ごとの都市構造を整理します。

大きく変化しつつある社会状況に対応した、くらしやすさを追求する「くらし」の視点  
都市の活力や、にぎわいの原動力となる産業活性化をめざした「産業」の視点  
都市のうるおいやゆとり、文化をはぐくむ役割を担う「水とみどり、文化」の視点

これら3つの視点ごとにとらえた都市構造を重ね合わせ、包含したものを、八戸市が将来めざす都市構造とします。

### 1) くらしの都市構造

少子高齢化や環境への関心の高まりなど、くらしをとりまく社会状況を踏まえつつ、拠点や交通、くらしのエリアなどの各々の機能を高め、市民がくらしやすい都市構造を形成します。

#### 拠点

様々な都市機能や生活サービスを集約的に集めた拠点を形成し、市民全体が都市サービスを楽しみやすい構造とします。また、市全体からアクセスしやすいように、地域特性や地域バランスを踏まえて、鉄道駅を中心として拠点を配置します。

#### 〔中心拠点〕 中心市街地

八戸市及び周辺市町村を含めた広域の中心となる拠点。行政機能や広域商業・業務機能、文化機能、エンターテインメント機能などの高次都市機能を集積させます。

#### 〔地域拠点〕 八戸駅周辺、陸奥湊駅周辺

中心拠点を補完する、市西部地域や東部地域の中心となる拠点。商業・サービス機能などとともに、市民活動支援機能や交流機能などの機能を集積させます。

#### 〔生活拠点〕

各地域の生活や地域活動を支える拠点。生活サービス、地域活動の支援機能、レクリエーション機能などの日常生活を支える役割を担います。

## 交通

高齢社会、環境配慮への対応が可能なバスと鉄道を市内を移動する中心的な交通手段として位置付け、多くの人を使いやすくなるようバスと鉄道の連携強化を図ります。中心市街地と八戸駅周辺、陸奥湊駅周辺の各拠点を結ぶ軸の強化を図るとともに、市内各所から各拠点へと快適に連絡できる公共交通ネットワークを形成します。

## くらしのエリア

道路や下水道などの都市基盤の整備動向や居住環境、自然的環境などの地域特性を活かし、機能性の高いくらしのエリアを形成します。

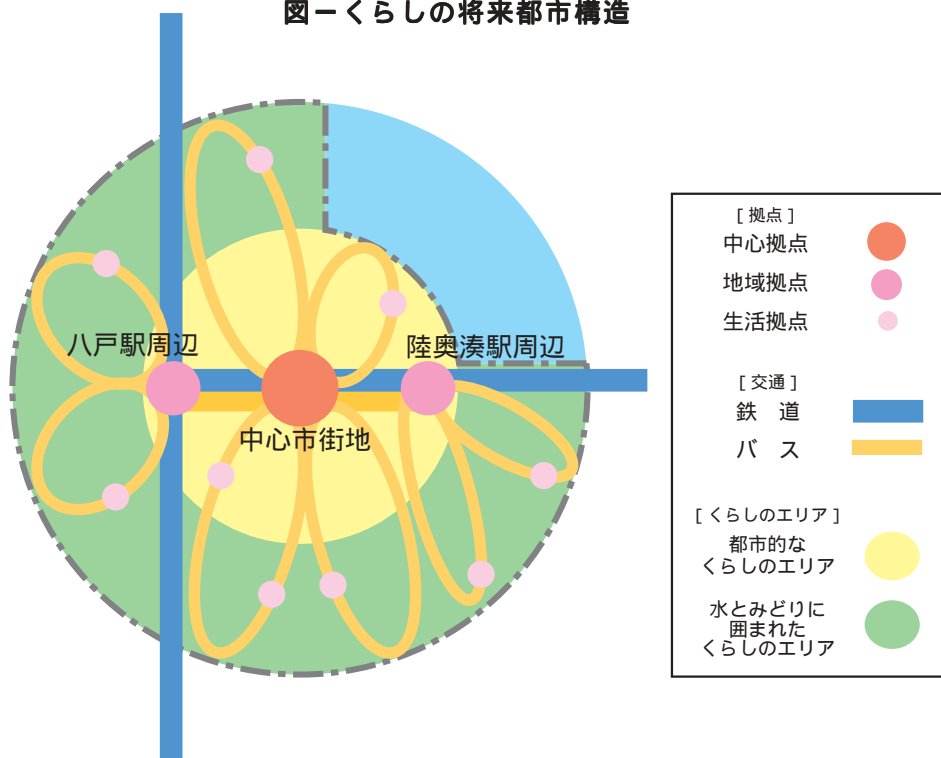
### 【都市的なくらしのエリア】

道路や下水道、公園などの都市基盤が整備され、身近な場所で日常的な都市サービスを楽しむ、都市的なくらしやすさを充実するエリア

### 【水とみどりに囲まれたくらしのエリア】

豊かな自然的環境に囲まれ、また都市サービスを楽しむやすいネットワークを持った、ゆとりと落ち着きのあるくらしやすさをめざすエリア

図－くらしの将来都市構造



## 2) 産業の都市構造

既存産業の活性化や、広域交流の促進により、多様な都市活力を創出する都市構造を形成します。

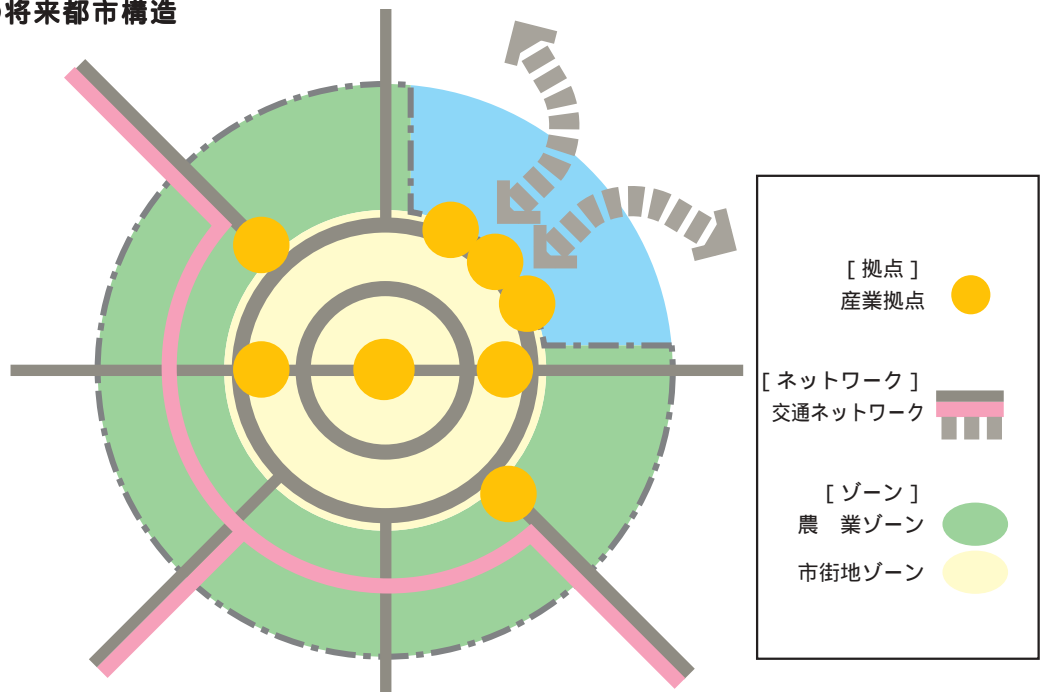
### 拠点

市内に分散している既存産業の活性化に向け、産業ごとに拠点性を高めます。さらに新幹線の開業を受けた交流人口の拡大による都市活力の創出に向け、観光拠点や、各産業拠点などに観光・交流機能を付加した拠点を形成します。

## 交通

様々な産業活動や交流を支え、また異なる産業間の連携強化をめざし、拠点間を結ぶ交通網と、各拠点から新幹線駅や港湾などの広域交通拠点へとつなぐ交通網を形成します。

図一 産業の将来都市構造



### 3) 水とみどり、文化の都市構造

長い時間をかけてはぐくまれてきた自然や歴史、新たに創出する文化により、都市のうらおいやすらぎを深める都市構造を形成します。

#### 拠点

各々の特性を活かしながら、市内外から人々が集い、交流する拠点を形成します。

#### [ 集い、にぎわう拠点 ]

中核的な都市における都市機能のひとつとして、市内外の人々が集い、にぎわう拠点。

#### [ 訪れ、憩う拠点 ]

自然的環境や歴史環境など、時間をかけて培った八戸らしい既存資源つちかを維持・保全するとともに、市内外の人々がやすらぎ、交流する拠点。

## 水とみどりのネットワーク

八戸市は海から拓けた都市であり、海は河川とともに八戸らしい空間を形成しています。これらの海と河川沿いの空間をつないだ、市内をめぐる水とみどりのネットワークを形成します。

## 水とみどりゾーン

地域ごとの特性や求められるはたらきを踏まえた、水とみどりの保全や創出、活用を図るゾーンを形成します。

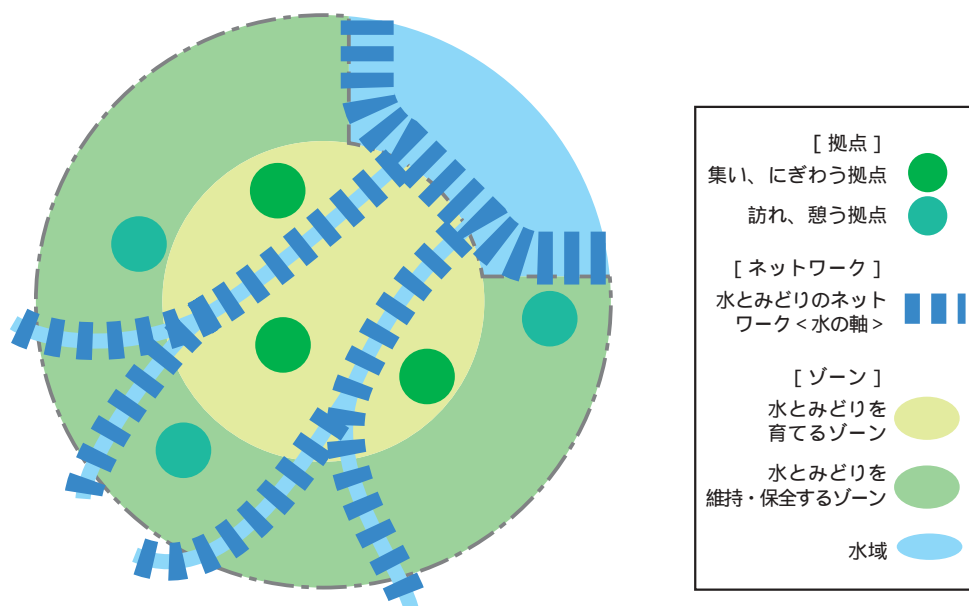
### 【水とみどりを育てるゾーン】

市民が心地よくくらすよう身近な存在となる水とみどりを創出し、活用を図るゾーン。街角のうるおいをもたらすみどりや八戸を代表する景観となる特徴的なみどりなど様々なみどりを創出し、快適な都市空間をはぐくみます。

### 【水とみどりを維持・保全するゾーン】

自然的土地利用を主体とするゾーン。海岸や丘陵地、河川沿いなどは自然資源として保全し、農地や樹林地、漁場などは産業を担う水とみどりとして保全、活用し、うるおいのある自然的環境を形成します。

図一 水とみどりの将来都市構造



# 7

## まちづくりの基本方針

### (1) いきいきとした都市を形成する土地利用の基本方針

いきいきとした都市の形成に向け、無秩序な市街地の拡大を抑制し計画的な土地利用を図るとともに、土地利用ごとにふさわしい機能性の高い空間形成を図ります。

都市的土地利用\*と自然的土地利用の広がりについては現状を維持し、都市的土地利用では効率的な市街地形成を図り、自然的土地利用では自然的環境の保全を基本とします。

#### 都市的土地利用

八戸港をかかえるように広がる既成市街地では、低・未利用地の有効利用をすすめ、コンパクトで効率的な都市的土地利用を図ります。また、にぎわいと活気を生み出す機能的な都市整備をすすめます。

**住居系** 低層住宅を主体とし、良好な居住環境の整備を図ります。また都市基盤施設の効率的な整備により居住環境の改善を図るなど、都市的なくらしやすさの充実につとめます。

**商業業務系** 商業業務機能や都市サービス機能などの立地を誘導し、コンパクトにまとまりのある商業業務地として環境整備を図ります。中心市街地やその周辺地域では、中高層の土地利用や商業・業務施設と住宅との複合利用などを図りながら、都心居住を推進します。

**工業系** 工業や水産業、流通業務を主体とし、活気ある産業活動の環境整備を図ります。

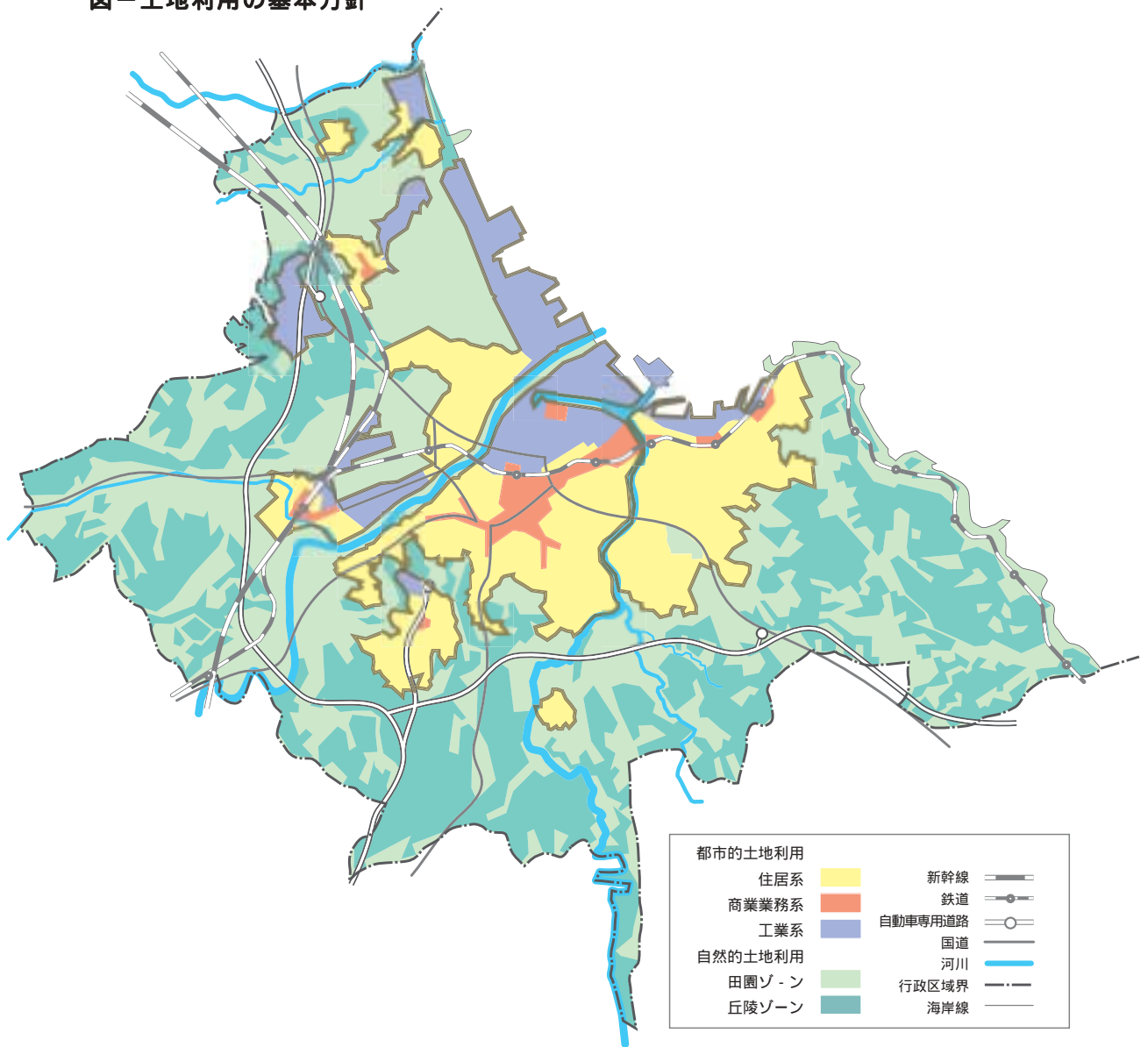
#### 自然的土地利用

既成市街地（都市的土地利用をすすめる地域）を取り囲む地域では自然的土地利用を図り、無秩序な開発を抑制します。緑豊かなうるおいとやすらぎを生み出す、自然的環境の維持・保全を図ります。

**田園ゾーン** 農地や集落地、樹林地などによって形成し、市街地のにじみだしを抑制するとともに、良好な田園環境や自然的環境の維持・保全を図ります。

**丘陵ゾーン** 丘陵部の樹林地によって形成し、市街地を取り囲む自然資源として、また水源のかん養機能を果たす緑として保全を図ります。

図一土地利用の基本方針



## (2) にぎわい・活気を生み出す都市づくりの基本方針

都市のパワーとして、「多様な産業が生み出す活気・活力」と「人が集まり、交流することにより生まれるにぎわい」、「市民一人ひとりの活動や希望が生み出す力」があります。

これらのパワーを生み出し、パワーを集める都市構造の形成をめざし、「人々が集い、にぎわう都市拠点の形成」、「都市活力を創出する産業拠点の形成」を図り、にぎわいや活気を生み出す都市づくりをすすめます。

### 1) 人々が集い、にぎわう都市拠点の形成

多くの人々が集い、交流することで、創出されるにぎわい・活気づくりをめざし、広域的都市機能などを複合的に集約した都市拠点の形成を図ります。

人々が集い、にぎわう、都市の活気を創出する都市拠点である「中心市街地」と「八戸駅周辺」「陸奥湊駅周辺」では、八戸の顔としてふさわしい空間、景観形成をすすめます。大規模商業施設の立地は、原則としてこの3地区内に誘導します。また、新たな公共公益施設は、この3地区などの拠点に機能集約を図ります。

これらの拠点では、公共交通ネットワークにより、市内及び周辺市町村の連携強化を図るとともに、バリアフリーに配慮した空間及びシステム整備を図ることで、市内外から、より多くの人々が訪れやすい拠点づくりをめざします。案内表示には外国語やピクトグラム(絵文字)を併記し、わかりやすくします。

#### 中心市街地

- 行政機能や広域商業・サービス機能、業務機能、居住機能などを誘導しながら、様々な機能が複合的に集約する、広域的な拠点形成を図ります。
- ・北東北の中核的な都市としての役割を担う、レクリエーション機能や文化芸術機能などの拠点整備をすすめます。
  - ・歩いて楽しい回遊性の高い拠点形成に向け、公共交通の充実や、道路、公園、駐車場などの整備、うるおいのある景観形成などを図ります。
  - ・沼館地区では、既存の中心市街地に不足していた、海や港が感じられるゆとりのある空間として、広域商業機能やレクリエーション機能の整備を図ります。
  - ・既存の都市基盤・都市施設などのストックを最大限に活用し、これに新たな機能・システムなどを付加することによって利便性を高めていきます。
  - ・多様な都市機能の集積による生活利便性を活かした都心居住の推進を図ります。

#### 八戸駅周辺

- 八戸市の広域ゲート・交流拠点として、高速交通の結節点となるターミナル機能や情報発信、観光案内機能の充実を図るとともに、八戸市西部を圏域とした地域拠点の形成をすすめます。
- ・八戸駅周辺の低・未利用地の有効利用や市街地整備をすすめて、東北新幹線八戸駅周辺という立地を活かした観光機能や宿泊機能、商業・サービス機能、業務機能、広域行政サービス機能の誘導を図ります。
  - ・市内外から人が訪れる交流拠点として、八戸の顔となるような象徴的な施設整備を検討します。

## 陸奥湊駅周辺

- 観光・交流拠点として、現在の魚菜市場周辺の風情を残しながら観光機能、商業・サービス機能などの充実を図るとともに、観光客が訪れやすく、回遊して楽しめるような総合的な市街地整備を図ります。
- ・八戸市東部を圏域とした、市民が利用する地域拠点の形成をめざし、商業・サービス機能や生活支援機能などの集積を図ります。
  - ・道路や駐車場の整備、市場や館鼻公園などを巡る散策ルートなどの整備とともに、鉄道とバスの結節点機能の整備を図ります。

## 2) 都市活力を創出する産業拠点の形成

都市活力を創出するため、多様な産業の拠点形成を図ります。都市の活気につながる産業活性化に向け、異業種間の連携や、官・学との連携、市民との連携を図り、新たなシステム導入やしくみづくり、相互支援の体制づくりを図ります。また、エネルギーや資源リサイクル分野及び関連事業の積極的な集積を図ります。さらに交通基盤や情報基盤の整備などを促進します。

若い世代や高齢者、障害者など多くの人々の労働力を活かし産業の活性化を図るとともに、市民の活力をはぐくむために、様々なワークスタイルがとれる就労環境整備や働くための支援などをすすめます。

### 循環型産業拠点

環境・エネルギー産業創造特区\*や総合静脈物流拠点港\*（リサイクルポート）、エコタウン\*などの先行的な取り組みにより、産業拠点の形成を図ります。

### 物流拠点

- ポートアイランドの建設及びF A Z関連施設の整備により、北東北の国際貿易・物流拠点の形成を図ります。また、市民が臨海部に接点を持つ機会として、緑地などの整備や、個人輸入、小売機能の導入などを検討します。
- ・卸センター地区周辺において、卸売・流通・陸上貨物輸送の機能集積の強化を図ります。

### 水産業拠点

魚市場に市民や観光客を招き入れる観光機能の導入を図るとともに、低・未利用地の活用などにより拠点形成を図ります。

### 情報産業・連携拠点

八戸グリーンハイテクランドを中心に、情報産業の集積をすすめます。また、循環型産業拠点や学術拠点などとの積極的な連携を図ります。

### 産学連携・学術拠点

大学や高専が持つ学術・研究機能と産業とが共同研究や開発などの連携を積極的に図ることで、産学連携と学術を牽引する拠点形成を図ります。

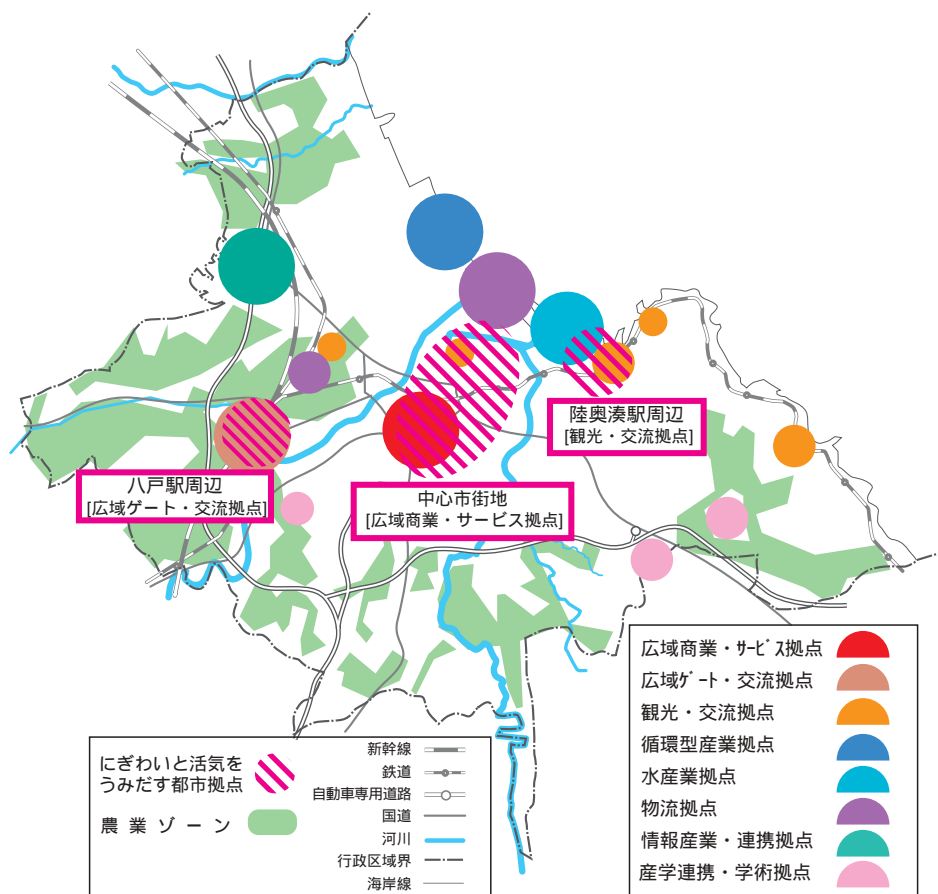
## 観光・交流拠点

新幹線などの高速交通網を活用しながら、自然資源を活かした種差海岸や蕪島、八戸駅との近接性を活かした八食センターなど、それぞれの特性を活かした観光・交流拠点の育成、充実を積極的にすすめます。また、観光基盤整備などを図るとともに、公共交通の連携強化やソフトの充実、PRなどをすすめます。

## 農業ゾーン

今後も営農を継続し、農地を維持します。市民農園、あるいは市民ボランティアの活用などのしくみづくりを検討し、維持に向けた取組みをすすめます。また、集落地内および近接する農地では良好な田園景観をはぐくみ、集落地と一体となった農地の維持・保全につとめます。

図 - にぎわいと活気を生み出す拠点形成



### (3) ぐらしやすさを高めるまちづくりの基本方針

「ぐらしやすさと文化をはぐくむまち」の形成をめざし、「安心してぐらせる都市基盤の充実」や「地域の特性を活かしたぐらしやすさの向上」をすすめます。

#### 1) 安心してぐらせる都市基盤の充実

災害や事故、犯罪から市民や財産を守り、快適にぐらせる都市環境の形成に向け、都市基盤の整備をすすめ、ぐらしやすさを高めます。

##### 道路環境の整備

幹線道路へ円滑に連絡し、災害時には避難路や延焼遮断帯（火災が広がるのを防ぐオープンスペース）の役割を担う地域の補助幹線道路、街区道路などの整備を図ります。また、バリアフリーに配慮し、だれもが利用しやすい道路環境の整備を図ります。

多くの人が集まり交流する場所では、公共交通の円滑な連携を図るとともに、楽しみながら、安心して歩ける歩行者空間の整備をすすめます。

子ども達が日常的に利用する通学路や公園周辺などでは、歩行者安全施設や防犯灯の整備など安心して歩ける道路環境の形成を図ります。

家屋が密集し生活道路の狭い地区では、まちづくり協定などの活用により、沿道の建て替えと連携して道路の拡幅を誘導し、火災などの災害に対して安全なまちの実現を図ります。

##### 河川の整備

河川における堤防や河川沿いの公園など治水施設の整備をすすめるとともに、流域における保水・遊水機能の確保に配慮した土地利用や施設整備を誘導する総合治水対策の推進を図ります。

河川整備を行なう際には、親水性や自然環境との調和を図りながら、水とみどりのネットワークや、うるおいのある河川環境の形成を図ります。

##### 下水道などの整備

下水道や雨水排水施設の整備をすすめるとともに、総合治水対策の推進を図ります。

特に、快適性の向上と自然環境の保全を図るため、市街地内の下水道整備を積極的にすすめるとともに、その他の地域では個別処理などの誘導・推進を図ります。

##### 公園やひろばの整備

拠点となる長根公園や八戸公園などの充実を図るとともに、日常生活のゆとりやうるおいをはぐくむ身近な公園の整備を図ります。

市街地を中心に、身近にあるみどりや憩いの場として、避難地として、また延焼遮断帯などの防災機能などに配慮した公園緑地の整備を図ります。

また限りある財源の中で、貴重な緑資源の保全や防災性の向上などに向け、民有地の公園利用や市民への公開が図れるような新たなしくみづくりを検討します。

##### その他の都市施設の整備

廃棄物処理場などの都市施設は、快適な都市生活を営むために必要な施設であり、周辺環境との調和に十分配慮しながら整備を検討します。また、地球環境に配慮し、広域的な取り組みや先導的な環境共生システムなどについて検討します。

## 2) 地域の特性を活かしたくらしやすさの向上

「くらしやすさと文化をはぐくむまち」の実現に向け、冬の寒さや雪といった気候条件や地域状況、特性などに配慮しながら、安心・安全への対応、居住環境の整備などにより、くらしやすさの向上を図ります。

また、「都市的なくらしのエリア」と「豊かな水とみどりに囲まれたくらしのエリア」の各エリアにふさわしいくらし空間づくりをすすめます。

### 「都市的なくらしのエリア」におけるくらし空間づくり

水害、地震、火災などの災害からくらしを守る防災性の向上や、生活道路、歩道、公園の整備により、良好な居住環境の形成を図ります。また、地球環境に配慮したくらしの取り組みなどをすすめます。

うるおいのある居住環境の形成に向け、地区計画の策定や緑地協定など各種協定によるまちづくりのルール化を促進し、生活道路や公園・広場などの生活基盤の充実のほか、生け垣設置などによる街並み景観の向上を図ります。

道路や下水道、公園などが整備されている地域を「都市基盤の整備されている地域」と記述し、道路や下水道、公園などの整備が足りない地域を「都市基盤の未整備な地域」と記述します。

### 〔都市基盤の整備されている地域〕

根城や類家、城下などの住宅地では、利便性が高くにぎわいのある住宅地として、良好な居住環境を維持します。建て替えにあわせて耐震化やバリアフリー化への対応を図り防災性を高めるとともに、必要に応じ市街地の再整備を図ります。

- ・社会状況に応じ変化するライフスタイルなどに対応できる住宅地形成をめざします。
- ・八戸ニュータウンなど新しく計画的に開発された近郊の住宅地では、緑に囲まれた静かな居住環境が形成されています。
- ・今後も良好な居住環境の維持に向け、地区計画や緑地協定などを取り入れながら、用途の混在や宅地の細分化の防止、緑化の推進などを図ります。また、中心市街地などとの公共交通ネットワークによる連携強化や生活拠点の充実を図ります。
- ・コミュニティの充実、市民活動などを通じて、住民が文化と歴史を創出することで、くらしの質を高めた住宅地の形成を図ります。



## [ 都市基盤の未整備な地域 ]

内丸や吹上、湊、鮫などの古くから市街地でありながら都市基盤の未整備な住宅地は、中心市街地などに近接し公共交通の利便性が高い一方で、道路が狭く住宅地が密集しており、防災上の問題を抱えています。また、人口が減少し、高齢者世帯が増加しています。

- ・これらの住宅地では、防災性の向上に向けた市街地整備を検討します。早急な取り組みが困難な場合には、住宅の耐震化や不燃化、狭あい・行き止り道路の解消、緑化の推進など、居住環境の改善を地域で取り組むとともに、地域の防災体制の強化に努めます。
- ・地域の特性や歴史を活かしながらまちづくりをすすめます。
- ・比較的市の中心部から離れた都市基盤の未整備な住宅地では、ミニ開発などがすすみつつあります。地区全体での計画的なまちづくりを通じた市街地整備に向けた取り組みを検討します。公園などの公共用地として低・未利用地の活用を図るとともに、地域の補助幹線道路の整備などを先行的にすすめることで、安全性を高めた居住環境の形成を図ります。
- ・地域住民が中心となり、住民発意の地区計画や建築協定などを導入したまちづくりをすすめます。
- ・地区で話し合いながらくらしやすさを創出することで、地区固有の文化づくりをすすめます。

### 「豊かな水とみどりに囲まれたくらしのエリア」におけるくらし空間づくり

水やみどりと共存しながら、くらし空間の形成を図ります。

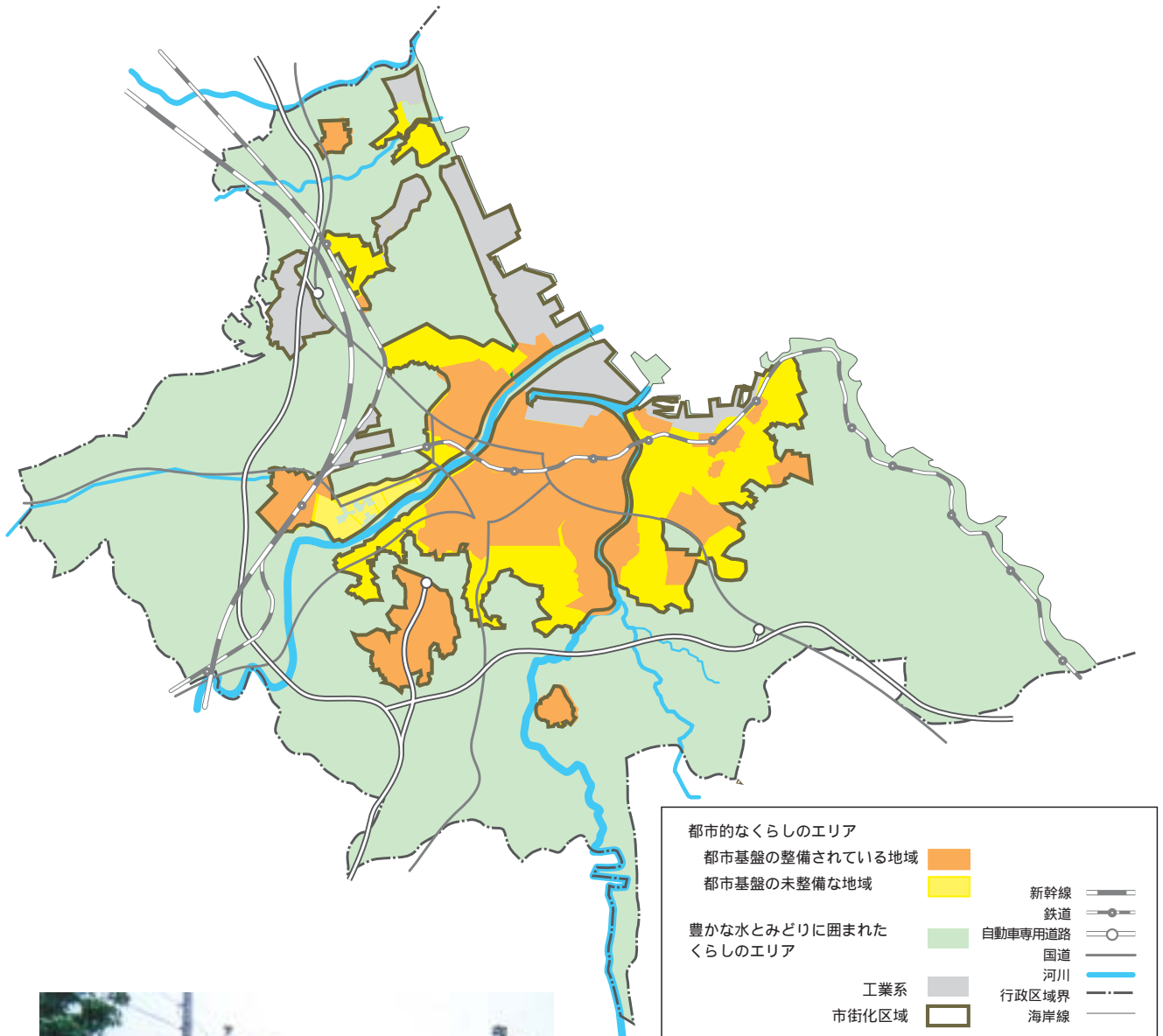
集落地では、生活道路や排水施設の整備、身近な生活拠点形成などにより居住環境の向上を図るとともに、中心市街地などとの連携強化などによりくらしやすさの向上を図ります。

また、過疎化がすすんでいる集落においては、周辺の田園環境と調和した柔軟な土地利用を検討し、コミュニティ存続を図ります。

また、地区ごとに歴史や文化をはぐくんできていることから、その維持・継承を図ることができるようなまちづくりをすすめます。



図一 地域特性を活かしたくらしやすさを高めるまちづくりの方針



## (4) 交通ネットワークづくりの基本方針

「パワーのある・パワーが生まれる都市」や「くらしやすさと文化をはぐくむまち」の形成をめざし、市内外から各拠点へのアクセス性を高め、くらしやすさの向上へつながる交通ネットワークづくりをすすめます。

円滑な交通を形成するために、交通需要の適切なコントロールと多様な交通手段を組み合わせた総合的な交通システムへの取り組みをすすめます。その一環として、地球環境への配慮などの視点から、公共交通が市民や来訪者などの市内移動の中心的な役割を担うように、バスと鉄道による公共交通ネットワークの強化充実を図ります。また、市内や周辺市町村から各拠点へのアクセス性を高めるとともに、全国、世界へと広がる交通ネットワークの整備を図ります。

### 1) 市民や訪れた人、だれもが利用しやすい公共交通ネットワークの形成

#### 鉄道とバスが連携した公共交通ネットワークの形成

バスと鉄道の連携を強化することで、高齢者や子ども、あるいは市外から訪れた人など、より多くの人に使いやすい公共交通ネットワークの形成をめざします。

公共交通ネットワーク形成にあたっては、中心市街地と八戸駅周辺、陸奥湊駅周辺の各拠点を結ぶ軸（バス・鉄道）を強化し、市内各所から拠点へアクセスするバス路線と鉄道との円滑な接続を図ります。

乗り継ぎポイントの交流広場づくりや、案内表示の充実、運行情報の提供、パーク＆ライド\*の施設整備などについても検討します。

#### 鉄道、バスの利用を促す取り組み

JR東北本線やJR八戸線、青い森鉄道の利用促進に向け、運行速度や頻度を高めるなど利便性の向上について鉄道事業者に要望していくとともに、駅のバリアフリー化、駅周辺での機能集約、鉄道とバスの連携強化などを図ります。

地域生活を支える公共交通を強化するために、都市拠点と生活拠点、市内各所とを結ぶバスサービスの充実を図ります。また、バスの利便性向上と利用促進に向け、均一低料金の循環バスや乗り継ぎ割引、コミュニティバス\*、ミニバス\*の導入などを検討します。

### 2) 拠点へとつなぐ道路ネットワークの形成

#### 放射環状道路網の形成に向けた幹線道路の整備

市内外から各拠点への連携強化を図るとともに、中心市街地への集中緩和をめざした放射環状道路網の形成に向け、外環状線や内環状線など主要な幹線道路の整備を促進します。

また、中心市街地へ集中する自動車交通を分散するインナーリング道路\*の形成について、市民や事業者、行政などで検討します。

## 放射環状道路網を形成する幹線道路

### 自動車専用道路

東北縦貫自動車道八戸線

八戸・久慈自動車道

### 環状方向

#### [内環状線]

都市計画道路 3・4・8号 白銀沼館環状線

都市計画道路 3・4・20号 売市烏沢線

#### [外環状線]

都市計画道路 3・3・8号 白銀市川環状線

都市計画道路 3・3・7号 白銀八太郎臨港線

### 放射方向

国道45号 国道104号 国道340号 国道454号

主要地方道八戸百石線 主要地方道八戸三沢線

主要地方道八戸大野線 主要地方道八戸階上線

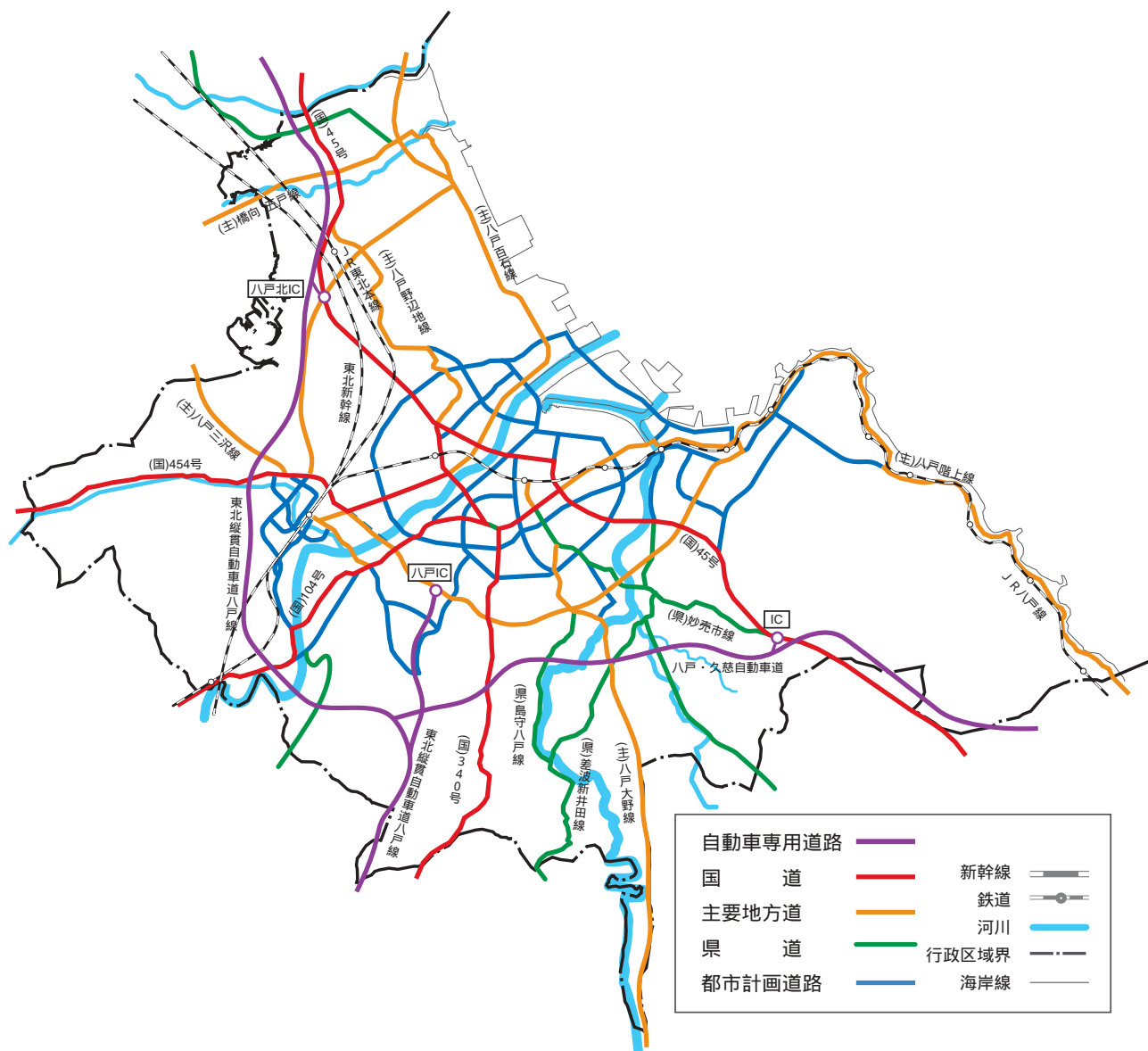
図一 放射環状道路網の考え方



## 放射環状道路網と連携する幹線道路の整備

市内各所から放射環状道路網へと結ぶ道路として、幹線道路の整備をすすめます。

図一 幹線道路網



### 3) 広域と連携する高速交通網の形成

#### 東北新幹線の延伸

八戸駅まで開通した東北新幹線が、青森市まで延伸されるよう支援します。

#### 広域幹線道路の整備

全国とつながる高速道路網である自動車専用道路として、東北縦貫自動車道八戸線や八戸・久慈自動車道の整備促進を図ります。

全国、世界へと広がる広域連携に向け、海路の玄関口である八戸港、空路の玄関口となる三沢空港との連携強化を図ります。

## (5) うるおいとやすらぎ、文化をはぐくむまちづくりの基本方針

「くらしやすさと文化をはぐくむまち」の形成をめざし、「歴史を引き継ぎ、はぐくむ文化づくり」や「水とみどりのネットワークづくり」、「八戸らしさとうるおいのある景観づくり」などによるうるおいとやすらぎ、文化をはぐくむまちづくりをすすめます。

### 1) 歴史を引き継ぎ、はぐくむ文化づくり

八戸市は、先人達が築いた文化のもとに発展し、歴史を刻んできました。これらの歴史を保存し次の世代へとつなぐ文化をはぐくむとともに、新たな時代における八戸らしい文化の形成をめざします。

地域ではぐくんできた歴史文化資源を、地域固有の魅力として積極的に活かしながらまちづくりをすすめます。また、優れた史跡や文化遺産を巡り身近にふれることができるネットワークの整備を図ります。

#### 八戸の歴史を伝え、文化をはぐくむ拠点形成

##### 〔歴史と文化の拠点〕

八戸市の歴史文化を学習し体験する拠点として、主要な史跡や文化体験施設などの整備充実を図ります。

歴史的・文化的価値が高い是川遺跡では、保全を図りつつその歴史を紹介する学術機能と、市内外から人が訪れ、憩う観光機能を持った拠点の形成を図ります。

また、根城跡や新田城跡、三八城公園などは、歴史的資源として保全を図るとともに、地域に根付いた交流拠点として、地域住民と行政の協働による維持・運営を図ります。

八戸芸術パークでは、八戸を中心とした南部地域の文化形成をはぐくむ、新たな拠点の整備をすすめます。

#### 歴史を引き継ぎ、文化をはぐくむコミュニティづくり

八戸三社大祭や国の重要無形民俗文化財に指定されているえんぶりなどは、各地域や町内会を基礎とするコミュニティによって引き継がれてきました。今後も、八戸独自の歴史文化が継承されるコミュニティを維持し、充実を図ります。

また、各地域で活発に行なわれているスポーツや音楽などの文化活動が地域ごとの特性をもった文化へとつながるよう、コミュニティの充実を図ります。

地域での歴史や文化をはぐくむコミュニティ形成に向け、活動の拠点づくりや活動への支援をすすめます。



## 2) 水とみどりのネットワークづくり

水とみどりは、都市のうるおいとやすらぎとして大きな役割を担っています。また近年では、水とみどりを維持・保全することが、都市の文化度を図る指標のひとつとして重要性を増しています。

このような視点を踏まえた上で、市民や来訪者が楽しみ、親しめる水とみどりのネットワークと、自然環境の保全に向けた水とみどりのネットワークの形成をめざします。

水とみどりのネットワークづくりにあたっては、水とみどりの拠点形成や、海と河川を軸としたネットワークづくり、ゾーンごとの維持、保全、創出をすすめます。

### 水とみどりの拠点形成

大規模な都市基幹公園（総合公園、運動公園など）や自然公園、市民のレクリエーション・憩いの場を、水とみどりの拠点として整備充実を図ります。

#### 【集い、にぎわう拠点】

中核的な都市として持つべき機能である、市内外の人々が集いにぎわう拠点として、長根公園や八戸公園、南部山公園などの整備充実を図ります。

長根公園は、県立屋内スケート場の整備とともに機能更新などについて検討しながら、市の中心に位置する交流・レクリエーション拠点としてふさわしい公園づくりをすすめます。

#### 【訪れ、憩う拠点】

種差海岸や蕪島などの自然資源や、歴史文化資源などの時間をかけて<sup>つちか</sup>培った八戸らしい地域資源を維持・保全しながら、市内外の人々が訪れ、憩う拠点形成を図ります。

#### 【身近ににぎわう拠点】

新井田公園や白山台公園、川を活かした環境学習・自然体験活動ができる水辺の<sup>がっこう</sup>楽校\*などでは、市民が訪れる交流拠点として整備を図ります。

### 水とみどりのネットワークづくり

#### 【水とみどりのネットワーク】

河川や海岸などの水辺、水とみどりの拠点、学校、主要施設などを緑豊かな歩道などで結び、水とみどりのネットワークを形成します。

馬淵川や新井田川などの下流部では、遊歩道や親水空間の整備、景観に配慮した護岸整備などによって、水を身近に感じられる空間を形成します。また、上流部では、河川周辺の自然環境を保全します。

海岸部では、それぞれの特色を活かした水辺空間が連なる水の軸の形成を図ります。八戸港では、市民が水を身近に眺めることのできる水辺空間、水辺に出られる歩行者空間を創出するとともに、水面を活用した海上ネットワークの形成を図ります。

#### 【沿道緑化などによるみどりのネットワーク】

拠点間を連絡する幹線道路などの沿道緑化をすすめ、みどりのネットワークの形成を図ります。

## ゾーン別の役割を持った水とみどりづくり

### [水とみどりを育てるゾーン]

人々が心地良くくらすためのうるおいとなり、また防災機能を果たす身近な水とみどりの創出を図ります。

住区基幹公園の整備や公共公益施設用地の緑化などにより、積極的に緑空間を創出するとともに、緑地協定などを活用しながら事業用地や住宅地などの緑化を図り、市街地内での新たな緑の創出につとめます。

また、地域住民が主体となって身近な水とみどりを維持、保全、創出できるようにしくみなどを検討します。

中心市街地や八戸駅周辺、陸奥湊駅周辺などの人々が集まる拠点では、八戸の顔にふさわしい水とみどりを市民や事業者、行政の協働により創出します。

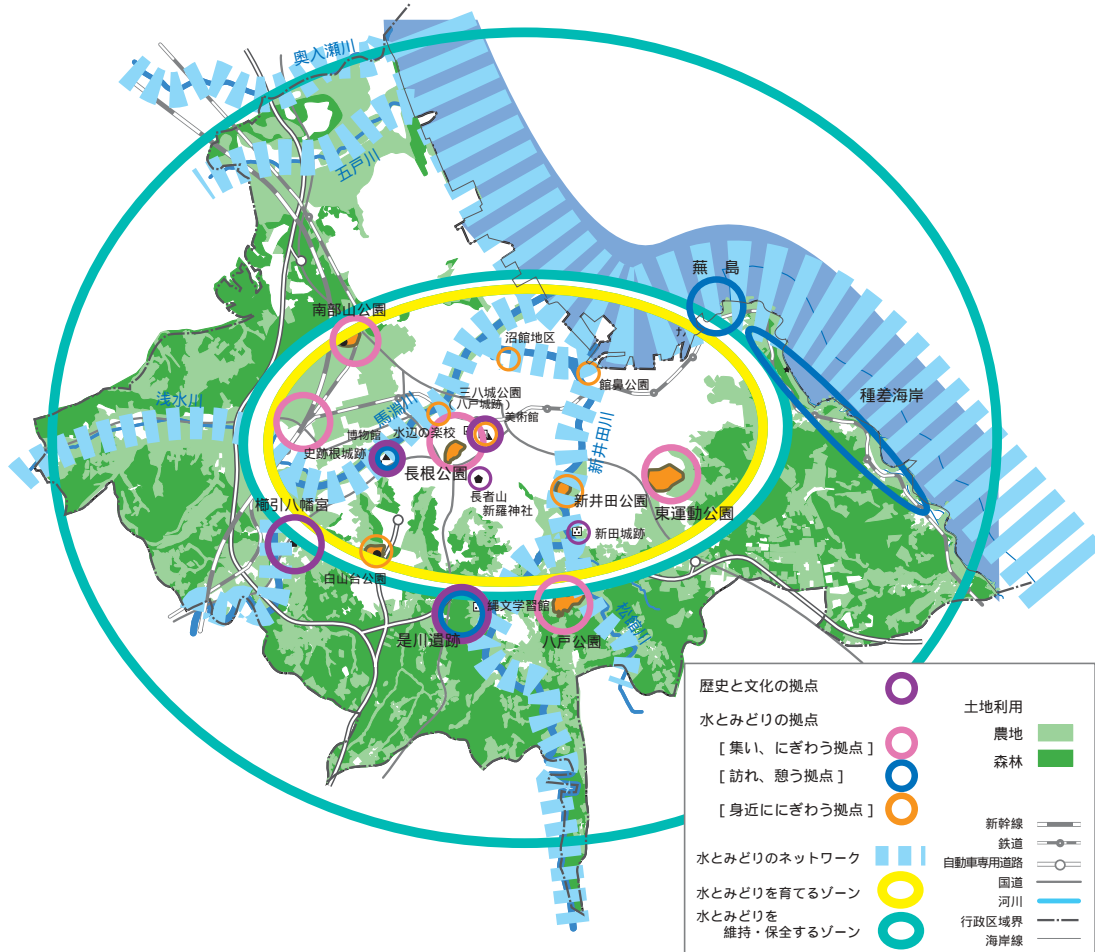
### [水とみどりを維持・保全するゾーン]

自然資源としての水とみどりを保全します。また、農地などの産業資源として育てた水とみどりは、保全するとともに活用を図ります。

海岸沿いなどの貴重な自然環境や市民が時間をかけ育ててきた里山、古木、大木などを維持・保全するためのしくみづくりを、市民とともに検討します。

また、農地や樹林地、漁場などの産業の場では、産業活性化の視点も含め保全、活用を図ります。特に農地では、営農維持にむけたしくみづくり、まちづくりや市民活動などを通じた農地保全の支援を検討します。

図一 うるおいとやすらぎ、文化をはぐくむまちづくり



### 3) 八戸らしさとうるおいのある景観づくり

八戸を象徴する景観や、市全体を眺望する景観、くらしの身近にある景観などの様々な景観は、歴史とともにはぐくまれてきました。そうした八戸らしい景観は、くらしにやすらぎやうるおいをもたらしたり、またふるさととしての愛着を生み出しています。

このような視点のもと、景観を文化として認識し、八戸らしい、うるおいのある景観づくりをすすめます。

#### 海を感じられる景観づくり

自然海岸や漁港、工業地など変化と広がりのある臨海部の景観の特性を活かしつつ、海を感じられる景観づくりを図ります。

#### 八戸の顔づくり

中心市街地や八戸駅周辺、陸奥湊駅周辺の拠点、あるいは、人々が訪れ、にぎわう拠点では、八戸の海や産業、歴史などが感じられる、八戸らしい景観形成を図ります。



#### 八戸の景観を眺める眺望点づくり

市内には海の景観や、雄大な自然的景観、夜景などの景観を眺められる眺望点が随所にあります。優れた眺望を市民が楽しめるように整備を図ります。

#### 地域の歴史や特性を活かした景観づくり

各地域の持つ歴史や特性などを活かしながら、地域住民が主体となって地域にふさわしい景観を形成します。

特徴的な景観・風景を形成している地区や地域の顔となる生活拠点周辺、駅前などでは、調和のとれた街並みの形成が図られるように誘導します。

集落ゾーンでは、周辺の自然景観と調和し、農家住宅や屋敷林、生垣などの昔ながらの農村景観を活かした景観づくりをすすめます。

#### 4) うるおいとやすらぎ、文化をはぐくむための計画・しくみづくり

「歴史を引き継ぎ、はぐくむ文化づくり」や「水とみどりのネットワークづくり」、「八戸らしさとうるおいのある景観づくり」に向け、計画策定やしくみづくりをすすめます。

##### 市全体を見据えた計画づくり

市全体の水とみどりのネットワークを位置づけるとともに、「緑の基本計画」に基づき、水とみどりの維持、保全、創出などを図ります。

景観づくりでは、地域や市全体、その周辺などとの連携や、市民や事業者、行政といった多様な主体との連携が特に必要なことから、市全体での取り組みとなる「景観形成基本計画」に基づき、景観形成を図ります。

##### 様々な文化をはぐくむ活動を支援するしくみづくり

「歴史を引き継ぎ、はぐくむ文化づくり」や「水とみどりのネットワークづくり」、「八戸らしさとうるおいのある景観づくり」を一体的にとらえ、連携できるしくみづくりを検討します。

まちづくり条例や景観条例などによる誘導・規制、建築協定、緑地協定などの活用、歴史保存、緑化、環境保全などの活動支援など、文化をはぐくむしくみづくりを検討します。また、マップづくりや案内板の設置、文化をはぐくむ活動の広報などを行なうことで、市民や訪れた人が楽しめたり、盛り上げられるような取り組みも積極的にすすめます。



## **( 6 ) 協働のネットワークづくりの基本方針**

「協働を礎にした愛着と誇りをもてる八戸づくり」の実現にむけ、まちづくりや都市活力の創出などをすすめる、協働のネットワーク形成を図ります。

市民や事業者、行政などが、様々な場面で、また様々な形で、主体的に活動し、連携や相互支援を図ることができるネットワークづくりをめざします。

### **1 ) 八戸づくりに向けた市民と事業者、行政による協働のネットワークづくり**

まちづくりや都市活力の創出など様々な活動について、市民や事業者、行政などが、互いに認め合い、対等な立場で協力しあいながら一緒に取り組めるような、協働のネットワークづくりをすすめます。

景観形成や拠点形成、観光・交流などの分野では、協働により取り組むことで高い効果を生み出す可能性があります。様々な主体が協働できるネットワーク形成に向け、計画策定やルール・しくみづくり、情報提供などをすすめます。

### **2 ) 市街地ゾーンと田園ゾーンが協働するネットワークづくり**

市街地ゾーンと田園ゾーンには、産業やくらしなど各々に市民の活動があります。それぞれでくらす市民が交流することで新たな活気を生み出し、都市活力の創出をめざし、人や産業などが交流し、協働するネットワークづくりをすすめます。

農・水産物などを市街地で販売したり市民に直接届けるネットワークや、市民が農業体験や農業ボランティアをしたり自然保護活動に取り組めるネットワークなどの形成をめざし、多様なしくみづくりやイベント、情報提供などを図ります。

### **3 ) 産業の活性化に向けた協働のネットワークづくり**

既存産業の活性化や新産業の創出などをめざし、異なる産業同士や産業と学術・研究機関、産業と市民などの協働のネットワークづくりをすすめます。

多様な産業間のネットワークや学術・研究機関などとの産学連携、新たに取り組む市民ビジネスに学術・研究機関や事業者から支援が得られるようなネットワークなどの形成をめざし、支援やしくみづくり、情報提供などを図ります。

### **4 ) 市民活動を支える協働のネットワークづくり**

まちづくりや環境問題など、多様な分野で市民活動が活発に行なわれています。これらの市民活動を連携し支援する協働のネットワークづくりをすすめます。

効率的な取り組みや活動の支援が図られるように、市民、市民活動団体間の連携や市民と学術機関、事業者との連携、市民活動団体と行政との連携などのネットワーク形成をめざし、活動拠点の整備や支援制度の充実、情報提供などをすすめます。